2015年11月17日付しんぶん赤旗

新しい大阪へ 11・22W選

さらば！ 橋下「維新」政治

これ以上教育壊されたくない

元「大阪の高校生に笑顔をくださいの会」 織原花子さん

「大阪の高校生に笑顔をくださいの会」で活動していました。「子どもが笑う大阪に」をスローガンに府知事に当選した橋下（徹＝現大阪市長）さんが、真っ先に行ったのが私学助成の削減でした。

当時、私は高校1年生。父が突然会社を辞めることになり、私学に行ったことで無理をさせているのではないかと自分を責めていました。

同じように、私の学校には経済的にしんどい家庭の子が多く、その政治が人ごととは思えませんでした。声を上げて思いを伝えなきゃ何も変わらないと気づき、同じ思いの仲間とつくったのが「大阪の高校生に笑顔をくださいの会」です。

許せない発言が

橋下知事と対談したとき、許せない発言がありました。〝この国の原則は自己責任。それが嫌なら政治家になって変えるか、この国を出て行けばいい〟と。貧困家庭に生まれたことが自己責任だと言われたのです。

このとき、この国は黙っていたら弱者が一番初めに切られるんだと気づきました。この社会は自己責任で、強い者しか生きられないという重圧が、子どもや若者をどれだけ苦しめているでしょうか。こんな考え方の政治家に大阪を任せてはおけません。

橋下さん率いる維新政治は、その後、次々に子どもや教師を苦しめる教育「改革」を進めました。過度な競争教育が子どもたちを苦しめていると、国連・子どもの権利条約が勧告をしているのに、競争を激化する高校の学区撤廃や、〝15の春を泣かせない〟とつくられたたくさんの公立高校を統廃合するなど、挙げれば切りがありません。

子どもを支える教師も疲弊しています。教育は政治の道具ではありません。教育は、私たちが人間らしく生きるために必要なもので、私にとって希望です。

自己責任だといわれても「違う」とはっきり思えたのは、個人の問題ではなく、人間としての尊厳と自由が剥奪されている社会があると学んだからです。

「もう苦しまなくていいんだよ」と学校の先生が教えてくれました。学校は、家に居場所がなかった私に居場所を与えてくれました。

子どもたちが自分を責め、競争に勝ち抜くために必死に良い子を演じ、孤独を感じてしまう。そんな教育をこれ以上つくりだしてほしくありません。これ以上教育をつぶされたくありません。

それは憲法違反

いま、民主主義が問われています。議会無視の強行採決で民主主義のプロセスを踏みにじること、「思想調査」や「君が代」を強制するのは完全に憲法違反です。

住民投票で「ノー」の審判を下されたのに、また「大阪都」構想を掲げる。大阪府民をなめるなと言いたいです。

民主主義は面倒くさいです。日常の忙しさに、娯楽に逃げ、当事者だということを忘れてしまいます。でも、これ以上、弱者を切り捨てる維新政治を許してはいけません。大阪でも民主主義を始めるのです。新しい大阪府政・市政を一緒につくっていきましょう。

（大阪市内での訴えから）